

## フクロウ類の足趾の形

シマフクロウ保護・研究家 山本純郎

一般に鳥類の趾は5趾（人の小指にある）が退化しており、4本で形作られている。大抵は前方に3本、後方に1本の「正趾足」である。しかしその種類によっていろんな形がある。ブッポウソウ目のように前方の2本が根元で合着する「合趾足」、アマツバメ類は4趾全部が前方に向く「皆前趾足」、ダチョウは前方2本の「二趾足」で、中趾と外趾が退化している。ガンカモ類は趾の間に水かきがある「蹼足」、葉状になった「弁足」と呼ばれるものなど様々である。

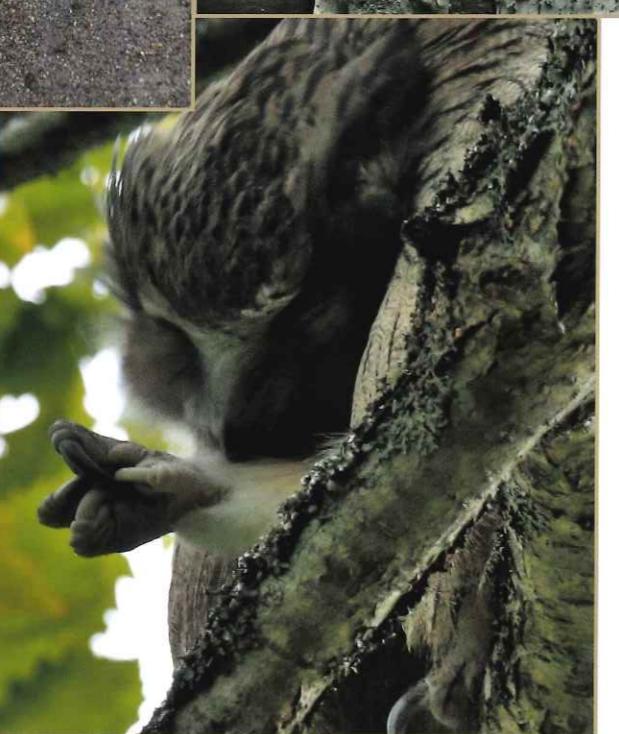
フクロウ類は前後2対2に分かれているが、外趾が前方にも動かすことが出来る「可変対趾足」。フクロウ類以外にはミサゴが同様の趾を持っている。オウム類ははっきりと2対2に分かれる「対趾足」。ワシタカ類は3対1の正趾足である。

フクロウの趾の動きを見ると握りしめれば外趾は完全に前方に向き、開くと後方に動く。止まつたり、歩いたりするときは、趾は2対2にわかれ、獲物の大小により2対2から1対3の形になる非常に便利な趾を持っている。これは獲物を確実に捉えるためのものである。フクロウ類の右足の足跡はKの字を形づくる。

## ●注釈

鳥 後趾=第1趾 内趾=第2趾 中趾=第3趾 外趾=第4趾  
人 親指 人差し指 中指 葉指

閉じる



足跡



事務局便り

本誌面でもご案内のとおり、シマフクロウの保護現場で尽力されている活動家の方々への助成金支援が決まりました。贈呈式を兼ねて、シマフクロウ保護に関する講演会と活動家の皆さんによるパネルディスカッションを来る令和2年2月18日に開催します。どなたでもご参加いただけますので、当会ホームページ（下記URLご参照）をご覧いただき、ぜひお申込みください。

●**賛助会員・寄付を募集しています** 当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆さまの賛助会員としての参加と、寄付を募集しています。ホームページからも手続きが可能となっておりますので、ぜひご覧ください。

【北海道シマフクロウの会 事務局】(株)北海道二十一世紀総合研究所 内 〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地北洋ビル6階  
(担当:米谷・山内) TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683 (URL: hokkaido-shimafukurou.org)

# 北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌



第24号



## 第1回シマフクロウ保護活動への助成金支援を決定

～令和2年2月に講演会・パネルディスカッション開催決定～

NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局

令和元年12月23日にNPO法人北海道シマフクロウの会の第2回理事会が開催されました。その中で、本年度の事業計画のひとつとしているシマフクロウの保護等に携わる方々への支援について審議し、令和2年2月を目処に助成金の贈呈を行うことを決定しました。対象先は次の方々6名となります。山本純郎氏(根室市)、早矢仕有子氏(札幌市)、竹中健氏(札幌市)、(株)猛禽類医学研究所 齊藤慶輔代表(釧路市)、田村康教氏(釧路市)、高田令子氏(根室市)。助成金額は活動の継続状況、貢献度等勘案し15万円～30万円の範囲で行われます。

また、同理事会で助成金の贈呈式を兼ね、令和2年2月18日(火)にシマフクロウ保護に関する講演会およびパネルディスカッションを開催することが決まりました。参加申込方法などNPOのホームページ等にてお知らせしますので、皆さま是非お誘い合わせのうえご参加ください。



●事務局より

国分北海道殿より道産酒「島梟」シリーズの売上金の一部を寄付いただきました

昨年「北海道シマフクロウ通信」の誌面にてご報告しました、食品卸道内大手の国分北海道殿が販売する道産酒「島梟」シリーズの売上金からの寄付について、今年も総額525,350円をいただくこととなり、12月13日に贈呈式が行われました。当日、国分北海道殿の黒沢社長様より目録を頂戴し、当NPO横内理事長から、シマフクロウ保護活動の支援のため大切に使わせていただく旨のお礼の言葉をお伝えしました。このご寄付については、これからも続けてお取組みいただされることになっています。

### 対象商品

島梟 ブランデー原酒・40度

島梟 梅

島梟 甘熟 SWEET RUBY

島梟 甘熟 SWEET WHITE

別途説明

計3,417本



## 気候変動とシマフクロウ

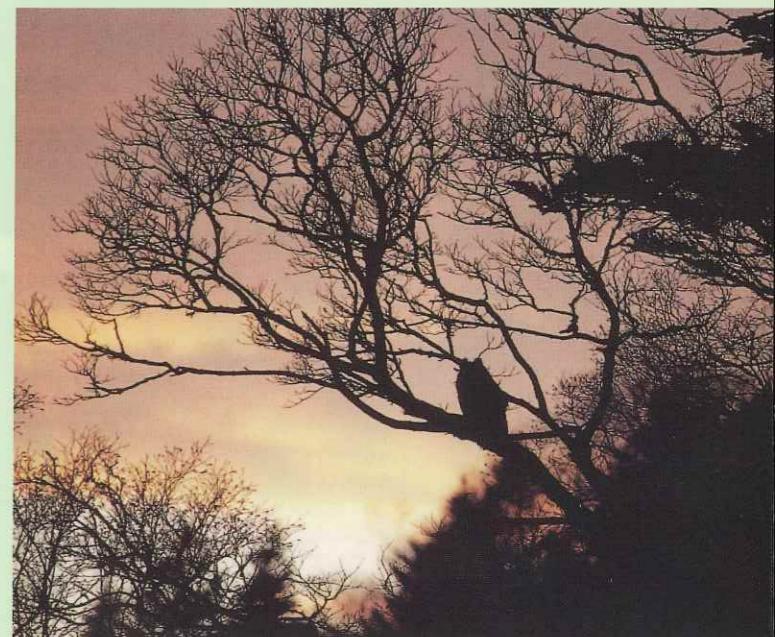
特定非営利活動法人  
北海道シマフクロウの会 理事長 **横内 龍三**

昨年9月の国連「気候行動サミット」に続き、12月にはマドリードで第25回気候変動枠組条約締結国会議(COP25)が相次いで開催された。特にCOP25においては、会期を延長して各国の温室効果ガスの削減目標の積上げ交渉が行われたが、結局、最終合意が得られないまま閉会となった。この間、石炭火力発電への依存度の高い日本に対する風当たりは強く、世界の環境団体を構成員とする「気候行動ネットワーク」は、地球温暖化

対策に消極的な国に対して贈る「化石賞」を日本とブラジルに贈ると発表した。

地球温暖化の影響と思われる異常気象の被害が、だんだん身の回りに迫ってきている。昨年の台風19号を始めとする大型台風による被害は大きく、昨年は地球温暖化の影響を世界で日本が一番強く受けたとの報道もある。これまでにも、日本近海で獲れる魚種の変化、ワインのブドウ畑の北上など地球温暖化の影響と思われる環境の変化が指摘されてきたが、

気候変動は次第に「気候危機」の様相を呈してきていると言つてよい。オーストラリアの大規模森林火災により、コアラが2千匹以上犠牲になったという報道もある。北極海海域の凍結が不十分でホッキョクグマが食糧難から60頭もロシアの北極海に面した村の近くに集結したとも伝えられている(1.12.17 読売新聞)。ところで、地球温暖化はシマフクロウの生態にどのような影響を及ぼすのであらうか。



道産酒「島梟」シリーズ  
『島梟 甘熟 SWEET WHITE 20年』  
発売



国分北海道株式会社では、「島梟」シリーズとして、本年6月の「島梟 甘熟 SWEET RUBY 20年」に続くポートワインタイプの甘味果実酒、「島梟 甘熟 SWEET WHITE 20年」を11月29日に発売しました。

数量限定(9百本、1本6千円:税別)での販売で、本商品も売上的一部分を当NPOへ寄付いただけます。札幌駅のどさんこプラザや市内デパートのほか、主要ホテルの飲食店でも提供されますので、ぜひご購入、ご賞味のほどお願いいたします。

シマフクロウが我が国では北海道のみに生息するという事実は、シマフクロウが比較的寒冷な環境を好むということかも知れない。将来北海道の温暖化が進んだ場合、いわゆる「渡り」をしないシマフクロウの生息環境はどうなるのであろうか。先年、日本で足環のつけられたシマフクロウがクナシリで発見されたという報道があったが、専門家の意見では流水を伝って渡ったのではないかということであった。その流水も温暖化が進行すれば来なくなる。生物多様性の保全運動も、地球温暖化の影響でその在り方を将来大きく変える必要が出てくるのかも知れない。